

## 事前評価個表

|          |   |
|----------|---|
| 整理<br>番号 | 1 |
|----------|---|

|          |   |              |                  |
|----------|---|--------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業   | 事業計画期間       | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 東北北海道整備局  | 事業実施主体       | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数51件、植栽面積836ha</p> |              |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）  | 2,194,639 千円 |                  |
|          | 総便益（B）  |              |                  |
|          | 水源かん養便益   | 2,357,836 千円 |                  |
|          | 山地保全便益  | 1,160,515 千円 |                  |
|          | 環境保全便益  | 1,445,550 千円 |                  |
|          | 木材生産便益  | 98,034 千円    |                  |
|          | 計   | 5,061,935 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）   | 2.31         |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                 |              |                  |

## 事前評価個表

|          |   |
|----------|---|
| 整理<br>番号 | 2 |
|----------|---|

|          |   |                |                  |
|----------|---|----------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業   | 事業計画期間         | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 関東整備局   | 事業実施主体         | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数65件、植栽面積423ha</p> |                |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）  | 1, 232, 003 千円 |                  |
|          | 総便益（B）  |                |                  |
|          | 水源かん養便益   | 1, 845, 758 千円 |                  |
|          | 山地保全便益  | 678, 392 千円    |                  |
|          | 環境保全便益  | 669, 527 千円    |                  |
|          | 木材生産便益  | 73, 460 千円     |                  |
|          | 計   | 3, 267, 137 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）   | 2.65           |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                 |                |                  |

## 事前評価個表

|      |   |
|------|---|
| 整理番号 | 3 |
|------|---|

|          |   |              |                  |
|----------|---|--------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業   | 事業計画期間       | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 中部整備局   | 事業実施主体       | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数56件、植栽面積497ha</p> |              |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）  | 1,673,841 千円 |                  |
|          | 総便益（B）  |              |                  |
|          | 水源かん養便益   | 2,952,968 千円 |                  |
|          | 山地保全便益  | 756,313 千円   |                  |
|          | 環境保全便益  | 718,132 千円   |                  |
|          | 木材生産便益  | 84,178 千円    |                  |
|          | 計   | 4,511,591 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）   | 2.70         |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                 |              |                  |

## 事前評価個表

|          |   |
|----------|---|
| 整理<br>番号 | 4 |
|----------|---|

|          |  |              |                  |
|----------|--|--------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業  | 事業計画期間       | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 近畿北陸整備局  | 事業実施主体       | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数109件、植栽面積696ha</p> |              |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）   | 2,019,385 千円 |                  |
|          | 総便益（B）   |              |                  |
|          | 水源かん養便益  | 3,115,424 千円 |                  |
|          | 山地保全便益   | 975,177 千円   |                  |
|          | 環境保全便益   | 1,083,064 千円 |                  |
|          | 木材生産便益   | 103,844 千円   |                  |
|          | 計  | 5,277,509 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）  | 2.61         |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                  |              |                  |

## 事前評価個表

|          |   |
|----------|---|
| 整理<br>番号 | 5 |
|----------|---|

|          |  |               |                  |
|----------|--|---------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業  | 事業計画期間        | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 中国四国整備局  | 事業実施主体        | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数196件、植栽面積1,386ha</p> |               |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）   | 3,625,300 千円  |                  |
|          | 総便益（B）   |               |                  |
|          | 水源かん養便益  | 5,964,317 千円  |                  |
|          | 山地保全便益   | 1,903,585 千円  |                  |
|          | 環境保全便益   | 2,230,184 千円  |                  |
|          | 木材生産便益   | 247,544 千円    |                  |
|          | 計  | 10,345,630 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）  | 2.85          |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                    |               |                  |

## 事前評価個表

|          |   |
|----------|---|
| 整理<br>番号 | 6 |
|----------|---|

|          |   |                |                  |
|----------|---|----------------|------------------|
| 事業名      | 水源林造成事業   | 事業計画期間         | H18～（最長おおむね80年間） |
| 事業実施地区名  | 九州整備局   | 事業実施主体         | 独立行政法人緑資源機構      |
| 事業の概要・目的 | <p>民間による造林が困難な奥地水源地帯において水源をかん養するため、独立行政法人緑資源機構が分収造林契約の当事者となって、急速かつ計画的に森林の造成を行う。</p> <p>具体的には、水源かん養保安林及び同予定地のうち、無立木地、散生地、粗悪林相地等において、独立行政法人緑資源機構が費用負担者となって造林地所有者、造林者と分収造林契約を締結し、費用の負担と事業実行に関する技術指導を行い水源林を造成する。</p> <p style="text-align: center;">契約件数91件、植栽面積890ha</p> |                |                  |
| 費用対効果分析  | 総費用（C）  | 2, 215, 635 千円 |                  |
|          | 総便益（B）  |                |                  |
|          | 水源かん養便益   | 4, 436, 382 千円 |                  |
|          | 山地保全便益  | 1, 229, 724 千円 |                  |
|          | 環境保全便益  | 1, 553, 656 千円 |                  |
|          | 木材生産便益  | 152, 450 千円    |                  |
|          | 計   | 7, 372, 212 千円 |                  |
|          | 分析結果（B/C）   | 3.33           |                  |
| 評価結果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性：水源かん養保安林等のうち無立木地、散生地、粗悪林相地等が対象で、早急に森林を造成する必要がある、事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれており、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性：水土保全機能の十分な発揮のための適切な施業方法等が計画されており、事業の有効性は認められる。</li> </ul>                                 |                |                  |